

令和 3 年 6 月 10 日現在

機関番号：32809

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2018～2020

課題番号：18K10259

研究課題名（和文）医療安全教育を担う看護教員と臨床看護師の教育実践力を高める研鑽支援モデルの構築

研究課題名（英文）Development of training support model to enhance educational competencies of nursing teachers and clinical nurses who are responsible for healthcare safety education

研究代表者

衣川 さえ子（KINUGAWA, SAEKO）

東京医療保健大学・看護学部・教授

研究者番号：90538927

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,400,000円

研究成果の概要（和文）：医療安全教育を担う看護教員と臨床看護師の教育実践力を高める研鑽支援モデルとして教材コンテンツ共有システムを開発し、有用性を検証した。教材を5フォルダー、<臨床研修事例><授業事例><コンテンツ活用報告><Q&A><交流の広場>で共有するシステムは、54名が2019年5月～2020年2月にSNSで活用した。有用性の検証は教育実践力の自己評価8項目と影響を質問紙調査し、得点化し符号付き順位和検定を行った。回答者29名の活用前後で有意な差を認めなかったが、21名は「実践を振り返る」「自分の思考追求の契機」「モチベーションの高揚」と好影響を評価した。研鑽支援モデルは一定の有用性を持つと示唆された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

看護職の「医療の安全」能力を高める上で、看護学生と看護師の一貫した医療安全教育が必要である。現在、教育機関および臨床現場で医療安全教育を担える人材が不足している。医療安全管理者として病院職員の研修の企画・運営を担当する看護師と看護教員が連携し医療安全教育の内容に精通し適切な教材が準備できるよう、教材を共有し相互学習するシステムを開発した。利用者への質問紙調査の結果、一定の効果が認められた。この研鑽支援モデルを普及できれば、医療安全教育の計画や教材作成が効率化でき、教育・研修の質の向上に繋がる。ひいては、看護職による患者や利用者に対する医療安全の保障に貢献する。

研究成果の概要（英文）：The system has a mechanism to share teaching material contents in 5 common folders, i.e., “clinical training cases,” “lesson cases,” “content utilization reports,” “question and answer,” and “open space for interactions,” and 54 individuals registered as users from May 2019 to February 2020. To determine its usefulness, we conducted a questionnaire survey comprising 8 questions for self-evaluation of competencies in healthcare safety education and their impacts. Scores for each question were analyzed using the signed rank sum test. Descriptions were subjected to qualitative content analysis.

The signed rank sum test of responses from 29 users showed no significant differences in scores before and after the use. 21 users reported positive effects, such as “an opportunity to review own practices,” “an opening to pursue own thoughts,” and “increased motivation.” It was suggested that the training support model is useful to a certain extent.

研究分野：医療安全教育

キーワード：医療安全 看護基礎教育 継続看護教育 現任教育 相互学習 セルフディベロップメント

## 様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

近年、事故の原因追求アプローチの限界を踏まえ、レジリエンスエンジニアリング理論に基づく安全マネジメントが導入されつつある(ホルナゲル,2017)。Safety- では、変動する医療現場の緊急対応や患者急変の中で、スタッフがうまく対応し組織が機能していることに注目し、安全を「成功の数が可能な限り多いこと」と捉える。攪乱や制約の下で物事がうまく行われ求める結果が得られるようにする新たな安全マネジメントについて理解し、基礎看護教育に取り入れる必要がある。

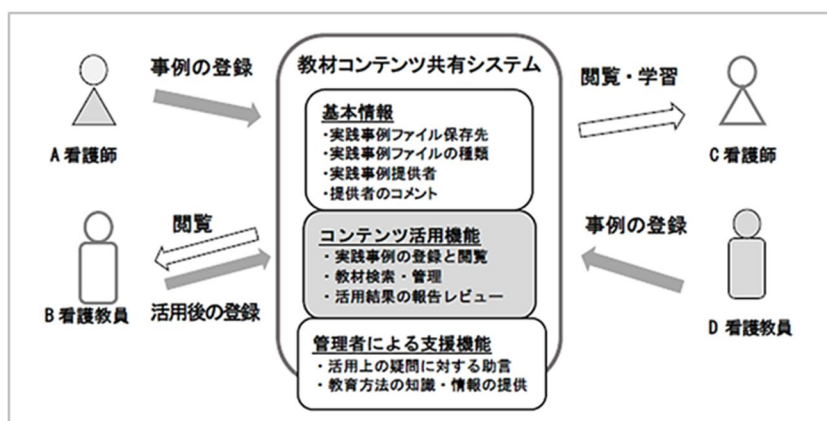
看護職の「安全」のコンピテンシー向上のために、看護学生と看護師の一貫した医療安全教育が必須である。しかし、現在、看護基礎教育機関および臨床現場で医療安全教育を担える人材が不足している。医療安全管理者の役割を担う看護師は、病院内の職員に対する研修の企画・運営にあたっているが課題も多い。医療安全管理に関する研修を受けても教育手法の学習機会は乏しく、研修内容を構成し適切な教材を準備することは容易ではない。他方、看護基礎教育機関で医療安全教育を担当する教員の多くは科目専任として位置づけられていないため、内容に精通し適切な教材を準備するのにかなりの時間を要している。

近年、eラーニングが導入されつつあるが、教材には質と量の確保が必要なため準備に相当な負担がかかる。作成した教材を「素材」として Web 上に投稿してもらい、共有利用できれば担当者の負担の軽減に繋がる。看護師と看護教員間で、医療安全教育に関する教材コンテンツの共有による実践知の共有と深化を目指すことが求められる。

### 2. 研究の目的

医療安全教育を担当する看護教員と臨床看護師の教育実践力を高めるために、研鑽支援モデルとしての教材コンテンツ共有システムを開発し、その有用性を明らかにすることを目的とした。教材コンテンツ共有システム(以下、本システム)は、看護教員および臨床看護師が授業の教材資料や実践した研修の事例を「素材」として SNS 上で蓄積・管理し、登録利用者が閲覧し教材作成のヒントが得られるように相互活用できる仕組みである。以下のシエマに示すように、研修計画や PowerPoint ファイル等のデジタル教材データをトピック単位に分けて編集・蓄積し、登録利用者がアクセスできる共有フォルダーを作成し、管理する。

SNS 上のコミュニティで、臨床知に精通した看護師と教育方法知を身につけた看護教員間で相互交流する本システムを活用すれば、教育実践知の共有・深化が効率的に図られ、医療安全教育の質の向上に繋がる。



### 3. 研究の方法

#### 1) 看護教員と臨床看護師の教材作成に関するニーズの分析

看護教員の医療安全教育実践の実際や教材作成上の困難を把握し、研鑽ニーズを明らかにするため、看護教員 13 名に 2018 年 8 月～9 月に困難と工夫について、60 分程のフォーカスグループインタビューを行い、質的に内容分析した。同様に、院内の医療安全研修を担当する臨床看護師 10 名を対象に 2018 年 8 月～9 月に困難と工夫についてフォーカスグループインタビューを実施した。結果から、看護教員および臨床看護師の実践上の課題の改善のためには、研鑽支援モデルとしての本システム活用の必要性が示唆された。

#### 2) 本システムの枠組みと活用方法の検討

公立社団法人私立大学情報教育協会による「教育コンテンツの相互利用システム」を参考に、システムの基本的構造と機能を検討した。Web 上の教材コンテンツの保存先、保存ファイルの種類を具体的に設定し、システム管理の具体的な手法について検討した。

#### 3) 本システム活用の有用性の検証

本システム活用の有用性を検討する方法を、量的記述研究で質問紙調査によるシステム活用の前後比較とした。調査内容は、基本属性、システムの利用状況、自己の医療安全教育実践力に対する評価8項目:教材作成の[アイデア][自信][心理的負担]、参加者の[理解度][満足度][関心度]、医療安全教育の[やりがい][継続意思]について、0なし~10最大の11段階リッカート尺度で回答を求めた。事前調査は2019年3月以降の利用登録時に57名を対象に、事後調査は2020年2月に43名を対象に、無記名自記式質問紙調査を実施した。

#### 4. 研究成果

##### 1)開発した本システムと活用法

基本的構造は、SNS(Social Networking Service)を用いて登録利用者からなるコミュニティを形成し相互学習する仕組みである。登録者(投稿・提供者)は、教育研修実践例を「素材」として投稿する、閲覧者は、「素材」を閲覧し、参考にして自らの「教材」を作成する、管理者は、PowerPoint ファイル等のデジタル教材の資料を分けて編集・蓄積し、利用登録者がアクセスできる共有フォルダーを作成し、研究者が全体を管理して利用を支援するものとした。教材コンテンツ共有フォルダーは、「臨床研修事例」「授業事例(含む演習・実習指導)」「活用報告」「Q&A」「交流の広場」の5フォルダーとした。

利用者は、研究参加に同意した者に限定し機縁法で募った。利用者には、IDとPWとURLを伝え、改正著作権法に則って登録および利用することを求めた。Webでのサーバ管理不具合により個人情報の漏洩等が生じないように、機密情報の取扱いに関する秘密保持契約書を専門業者と締結した。

##### 2)本システムの活用状況

2019年5月~2020年2月迄の間に、利用者数43名(看護教員34名、臨床看護師9名)によって活用された。活用状況を5つの教材コンテンツ共有フォルダー別の登録件数とコメント件数から算出した結果、総登録数32件の内訳は、臨床研修事例はチェックリスト・事故後対応など5件、授業事例は講義・演習・実習・研修の内容・方法・使用資料12件、活用報告は0件、Q&Aは実習前の医療安全オリエンテーション方法が2件、交流の広場は学会の発表内容、情報提供13件であった。

##### 3)本システム活用の有用性の評価

本システム活用前後2回の調査で回答が得られた、29名(看護教員24、臨床看護師5)を分析した結果、項目別平均得点をみると、事前で平均得点が高い項目は「継続意思」7.34、「やりがい」6.24であり、低い項目は「心理的負担感」3.17、「自信」3.93であったが、事後では「自信」以外の項目の得点が上昇した。平均合計得点は事前42.0(SD=9.93)、事後42.0(SD=11.03)であり、Wilcoxonの符号付順位検定の結果では前後の差が認められなかった。活用メリットと影響に関する記述内容を分析した結果、投稿では、投稿者自身が「自分の考えを整理できた」をメリットとして多く挙げた。授業実践例が7割を占めた閲覧では、「教育研修を考えるヒントを得た」「仲間の実践を知り考え方が広がった」との回答が5割を占めた。本システム活用による影響を受けた者は21名(72.4%)で、その内訳は「自己の実践を振り返る機会」「自分の思考追求の契機」「モチベーションの高揚」等であった。

利用者の自己評価では、本システム活用による教育実践力の明確な向上は確認できなかったものの、思考の整理や広がりがもたらされ、新たな知の探求に繋がっていることが明らかとなった。

以上より、構築した研鑽支援モデルは、一定の有用性を持つことが示唆された。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計12件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 2件）

1. 発表者名 衣川さえ子, 岩本郁子, 竹中泉
2. 発表標題 Developing a contents system of common educational material for nursing teachers and nurses in charge of clinical safety education
3. 学会等名 The 6th International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science 2020 (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 衣川さえ子, 岩本郁子, 竹中泉
2. 発表標題 医療安全教育を担う看護教員の教育実践上の困難
3. 学会等名 日本看護学教育学会第29回学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 岩本郁子, 衣川さえ子, 竹中泉
2. 発表標題 医療安全教育を担う看護師の研修実践上の困難
3. 学会等名 第23回日本看護管理学会学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 竹中泉, 衣川さえ子, 岩本郁子
2. 発表標題 チームサイエンス：医療安全教育における看護教員と臨床看護師の連携, 研鑽支援モデル「コンテンツ共有システム」活用の可能性
3. 学会等名 第50回日本看護学会 - 看護教育 - 学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 衣川さえ子, 岩本郁子, 竹中泉
2. 発表標題 医療安全教育を担当する看護教員の教育実践における困難と工夫の様相
3. 学会等名 日本看護学教育学会第29回学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 岩本郁子, 衣川さえ子, 竹中泉
2. 発表標題 医療安全教育を担う臨床看護師の教育実践における困難と工夫の様相
3. 学会等名 第23回日本看護管理学会学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 竹中泉, 衣川さえ子, 岩本郁子
2. 発表標題 チームサイエンス：医療安全教育における看護教員と臨床看護師の連携 研鑽モデル「コンテンツ共有システム」活用の可能性
3. 学会等名 第50回日本看護学会学術集会【看護教育】
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 衣川さえ子, 岩本郁子, 竹中泉
2. 発表標題 チームサイエンス：医療安全教育における看護教員と臨床看護師の連携 <a href="https://www-kofu.jsps.go.jp/kofu1/images/bt_add_small.gif">https://www-kofu.jsps.go.jp/kofu1/images/bt_add_small.gif</a>
3. 学会等名 第38回日本看護科学学会学術集会交流集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 衣川さえ子, 岩本郁子
2. 発表標題 The current situations and issues of the medical safety training for all staff in Japanese hospitals
3. 学会等名 7th World Congress of Clinical Safety (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 岩本郁子, 衣川さえ子, 竹中泉
2. 発表標題 医療安全教育を担当する看護教員と臨床看護師の研鑽支援モデルの評価 - SNSの活用状況からの分析
3. 学会等名 日本看護科学学会第40回学術集会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 衣川さえ子, 岩本郁子, 竹中泉
2. 発表標題 医療安全教育を担当する看護教員と臨床看護師の研鑽支援モデルの評価 - 事後調査結果からの分析 -
3. 学会等名 日本看護科学学会第40回学術集会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 衣川さえ子, 岩本郁子, 竹中泉
2. 発表標題 新たな安全マネジメントSafety- を看護基礎教育においてどのように展開するか
3. 学会等名 日本看護学教育学会第30回学術集会
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分担者	岩本 郁子  (IWAMOTO IKUKO)  (10728033)	東京医療保健大学・看護学部・准教授   (32809)	
研究 分担者	竹中 泉  (TAKENAKA IZUMI)  (20737465)	大阪信愛学院短期大学・その他部局等・教授   (44412)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------